



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しつかり考える子 ことばを大切にする子

もしも、話す言葉が目に見えたら…



○言いたいことを抑制なしに何でも言い、やりたいことを抑制なしに何でもやるのが、「自分らしさ」と思っている子や、それを「個性の発揮」と勘違いして子育てをしている親がいる。そうした子や親が以前より明らかに増えた。そうした子は、集団の中でも「家と同じように」他人への配慮のない言動を繰り返し、他人を嫌な気持ちにさせる。気持ちにはいつも「自分」だけがい、「他人」は不在なのだ。だから、言いたいことは言いたくなったら何でも言うし、やりたいことはやりたくなったら何でもやる。屈託なくやり、トラブルを起こす。特に、言動のうち、「言」は、簡単に無制限に実行できるものだけに、その配慮のないことの弊害は大きい。

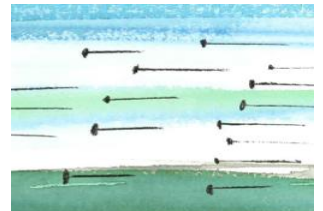
言葉というのは、ナイフと同じ。相手の心を切って傷つけてしまうことがある。しかも、自分でも意識しないうちにいつの間にか傷つけてしまっていたということも多い。言葉は便利なものだ。無制限に使えるものだけど、怖いものでもあると自覚することが大切だ。

『致知出版社 平 光雄 著 「道徳の話」』より引用

○「もしも、話す言葉が目に見えたら、どんな形をしていると思いますか？」

11 月の人権朝会で、今月の担当の先生が、『講談社 おーなり由子 作 「ことばのかたち」』という絵本の読み聞かせをしながら、子どもたちに語りかけました。

花の形をした美しい言葉なら、色とりどりの花びらとなってくちびるからはらはらと舞い落ちるのでしょうか。反対に、だれかを傷つける言葉が針の形をしているとしたらどうでしょう。話すたびにとがった針が口から発射されて、相手に刺さるのが見えたとしたら…。



また、きびしく傷つけるような言葉でも、それが大事な忠告だったら…。そしてそれが木の実の形をしているとしたら…。投げつけられたときは痛いけれど、拾って育てたら実ることもある木の实。見てすぐ分かったら、素直に受け取ることができるでしょうか？

今月の人権目標は、「ことばを大切にしよう」です。さて、今あなたが話している言葉はどんな形をしているのでしょうか。また、どんな色をしているのでしょうか。

「とどいたことばがこもれびのようにわらいますように」という言葉で、この絵本は締めくくられています。



○最後にもう一つ。人に対して大切なことは、「されて嫌なことを他人にしない」ということです。「それは、悪ふざけやただの遊びではない。自分がされたら嫌なことをするのは、相手を下に見ているからや。それが差別や！相手の心から血が流れているのを感じる心を、君たちは持て！」と、去年も書いたこの言葉を忘れずに。